

いぐさ品種「筑後みどり」の自然染土泥染めにおける適正カシ法					
<p>[要約] いぐさ品種「筑後みどり」を自然染土で泥染めして畳表に加工する場合、カシ時間を4時間と短くし、製織直前に原草重量5%の噴霧水量で再カシを行うことにより、畳表の色調の低下は緩やかとなり、織り傷の発生が抑えられ、品質評価が高くなる。</p>					
担当部署	筑後分場・水田高度利用チーム			連絡先	0944-32-1029
対象作目	いぐさ	専門項目	農産加工	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

消費者の農産物に対する安全・安心志向は高く、畳表においても自然素材であることを強調した販売戦略が必要である。福岡県産の高級畳表「博多華織」は、本県育成のいぐさ品種「筑後みどり」を用い、泥染めに自然染土を使用している。しかし、自然染土泥染めでは、製織時のカシにより変色程度が大きいのではないかと懸念されている。

そこで、いぐさ品種「筑後みどり」の自然染土泥染めにおける適正なカシ法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. いぐさ品種「筑後みどり」を自然染土で泥染めして畳表に加工する場合、カシ時間を4時間と短くすることで、保管時間が長くなっても畳表の色調の低下が緩やかとなり、変色程度が少ない(図1、表1)。
2. 製織直前に原草重量5%の噴霧水量で再カシを行うことにより、織り傷の発生が抑えられ、品質評価が高くなる(図2、図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. いぐさ品種「筑後みどり」の自然染土泥染めにおける適正カシ法として活用できる。
2. 再カシは、製織直前にいぐさ原草重量の5%の水量を噴霧器で行う。

[ 具体的データ ]

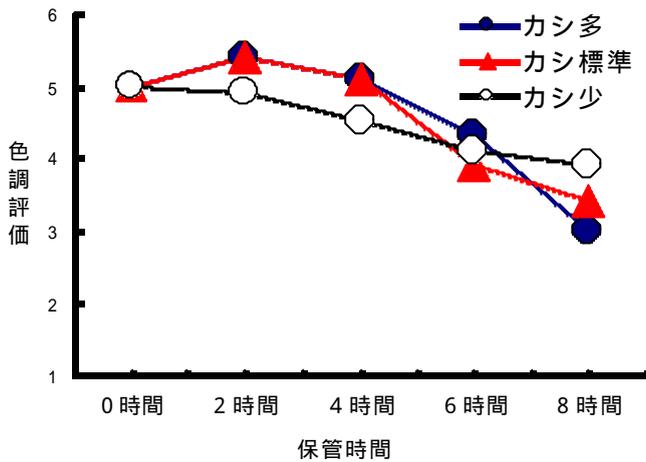


表1 保管時間に伴う色調評価の変動

カシ程度	色調評価の平均値	標準偏差	変動係数
カシ多	4.6	1.0	0.22
カシ標準	4.6	0.9	0.20
カシ少	4.5	0.5	0.11

注) 平均値は2時間おきの色調評価値の平均値で示す(n=5)。

図1 カシ程度の異なるいぐさの保管時間と畳表の色調評価

注) 1.カシ多：カシ機によるカシ時間が16時間、カシ標準：同10時間、カシ少：同4時間  
2.色調評価は6段階で評価(数値が高いほど良)

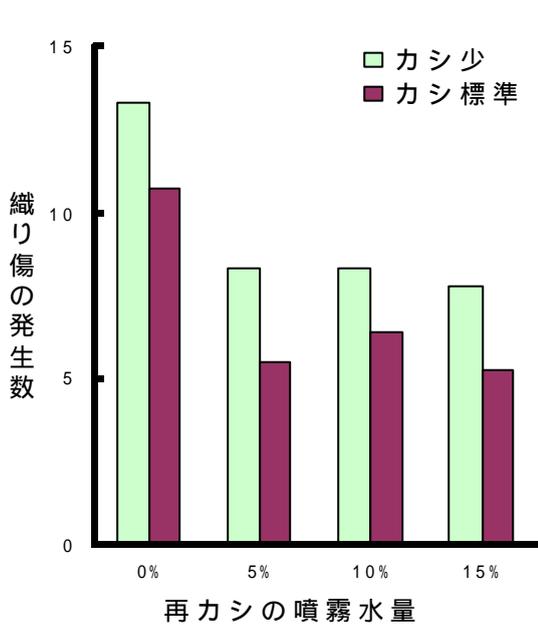


図2 再カシの噴霧水量が異なる場合の織り傷の発生程度

注) 織り傷の発生数は畳表1枚当たりの値

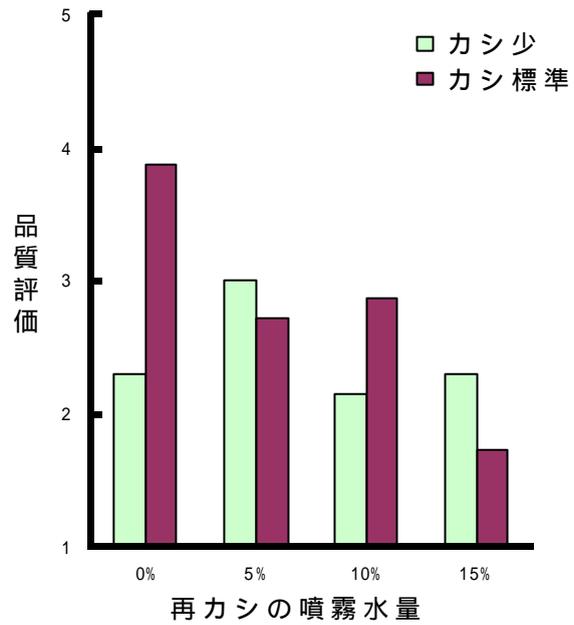


図3 再カシの噴霧水量が異なる場合の畳表の品質評価

注) 品質評価は5段階で評価(数値が高いほど良)

[ その他 ]

研究課題名：「筑後みどり」を利用した自然染土による適正カシ方法  
 予算区分：経常  
 研究期間：平成14年度(平成13、14年)  
 研究担当者：北原郁文、中村厚司、住吉強